

\* 前期比：D I・季節調整済

景況

業況は、職別工事業、設備工事業とも悪化傾向を強めました。一方、総合工事業では、悪化傾向を弱めました。全体としては-58と5ポイント上昇し、悪化傾向を弱めました。売上額は-44と5ポイント、収益は-38と20ポイント上昇し、減少傾向を弱めました。受注残は-38と13ポイント、施工高は-32と20ポイント上昇し、減少傾向を弱めました。価格面では、請負価格は-39と2ポイント上昇し、下降傾向を弱め、材料価格は22と12ポイント上昇し、さらに上昇傾向を強めました。資金繰りは-44と5ポイント上昇しましたが、依然窮屈感が強い状態は続いています。残業時間は-20と7ポイント上昇し、減少傾向は弱まり、人手は4と12ポイント下降し、過剰感を弱めました。設備の状況は-5と8ポイント上昇し、不足感を弱めました。設備投資については、車両を中心に13%の先が実施し、前期より4ポイント減少しました。

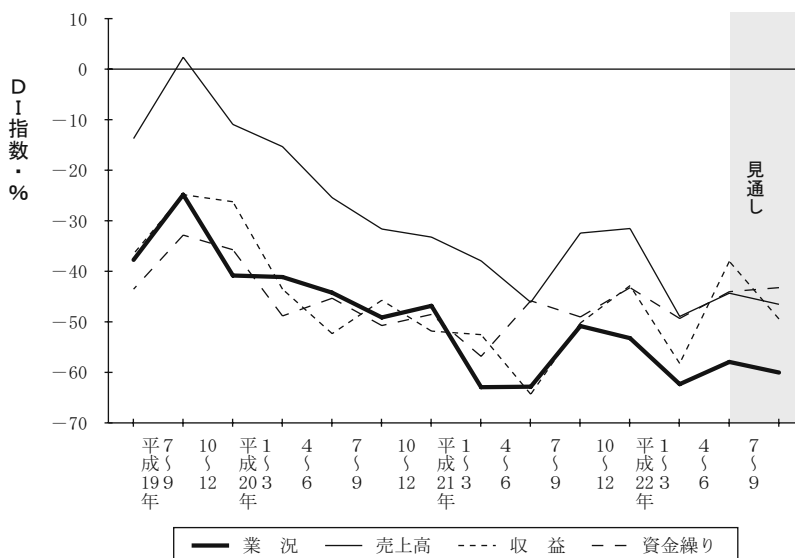
来期の見通し

業況は、設備工事業が悪化傾向を弱め、総合工事業、職別工事業では悪化傾向を強めるとみえています。全体としては-60と2ポイント下降し、いくぶん悪化傾向を強めるとみえています。大きな変化はなさそうです。売上額は-47と3ポイント、収益は-50と12ポイント下降し、減少傾向を強めるとみえています。受注残は-47と9ポイント、施行高は-48と16ポイント下降し、減少傾向を強めるとみえています。価格面では、請負価格は-44と5ポイント下降し、下降傾向を強め、材料価格は15と7ポイント下降し、上昇傾向は弱まりそうです。資金繰りは-43と1ポイント上昇することとなり、依然窮屈感は続くこととみえています。残業時間は-26と6ポイント下降し、減少傾向が強まるとみえています。人手は11と7ポイント上昇し、過剰感は強まりそうです。設備の状況は-2と3ポイント上昇し、不足感は弱まるとみえています。設備投資については車両を中心に10%の先が実施予定とし、前期より3ポイント減少するとみえています。

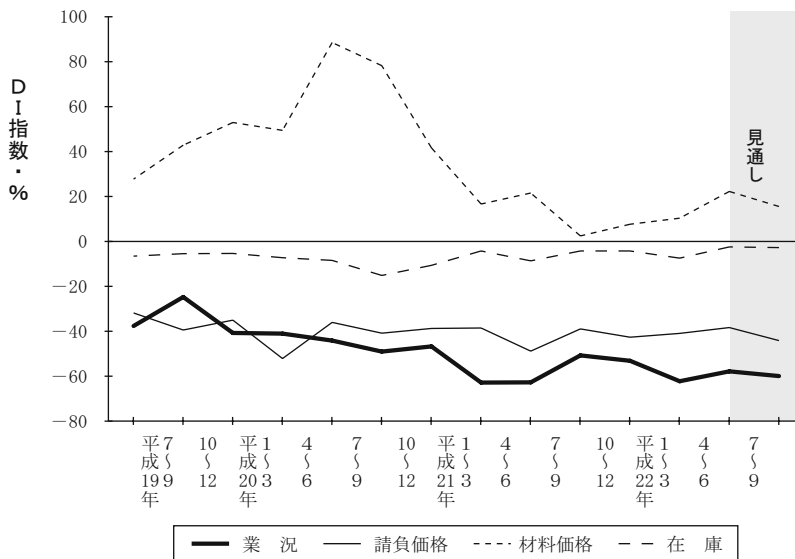
調査員のコメント

- オール電化の需要増加により、業況は横這いで推移している。  
(電気・管工事業)
- 個人住宅を主力として、手持ち金のない顧客の生計等勘案し、受注判断するという積極的な営業展開している。  
(一般住宅建設業)

景況の推移



主な指標の動き



業種別業況判断DIの推移

今期(22年4月~6月) / 前期(22年1月~3月)

		△100	△90	△80	△70	△60	△50	△40	△30	△20	△10	0	10	20	30	40
総合工事業	業況	● → ○														
職別工事業	業況	○ ← ●														
設備工事業	業況	○ ← ●														

経営上の課題点	1位	同業者間の競争の激化(2)	64%
	2位	売上の停滞・減少	61%
	3位	利幅の縮小(3)	49%

当面の重点経営施策	1位	経費を節減する(1)	66%
	2位	販路を広げる(2)	56%
	3位	情報力を強化する(3)	46%

\*( )は前回順位